

財政通信 No.24

みなさん、こんにちは。半年間のご無沙汰でした。財政課長です。〈()〉

前回の財政通信では、冒頭でNHKの朝ドラの話しをしましたが、平成26年度も終盤を迎えて振り返ってみると、他のドラマではTBSで放映された「ルーズヴェルト・ゲーム」を毎週楽しみに見ていました。中堅精密機器会社である青島製作所とその社会人野球部が、逆転に次ぐ逆転を演じ、逆境を乗り越えていく様にグッと来ました。民間企業の経営状況に翻弄される野球部と部員の物語でもありましたが、地方公務員の私にとっても他人事ではないような気持ちで見ました。また、唐沢寿明や江口洋介、山崎努などの俳優陣の演技にも感銘を受けましたし、課員同士もジュディ・オングの役柄が〇補佐みたいで、野球部員の犬彦が昨年度まで在籍していた〇主幹に似ているなどと話し合っていました。

普段は、黙々と業務遂行に徹している課員ではありますが、共通の話題で盛り上がった時期もありました。

ところで私自身は体調・気力ともに好調をキープすることができ、課員ともども昨年10月以降、足掛け約5ヶ月間に及ぶ財政課のメインイベント、「当初予算編成」を無事に終了することができました。

財政課では、すでに予算編成作業からモードを切り替えて、平成26年度予算の最終調整や市債の借入れ、決算対策、国からの「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」への対応などに全力投球しているところです。

では、そろそろ本題に入ります。今回の主要テーマは平成27年度の予算編成状況です。最後までお付き合いください。

1. 平成27年度予算編成の状況

平成27年度予算の各課からの要求締め切りは11月7日でした。要求漏れの追加や特別会計との繰入繰出、特別会計の歳入歳出調整を行った後、まずは財源不足額(残念ながら財源超過は経験ありません)を把握します。その規模の大小により、後の査定や調整状況も大きく変わってきますので。

さて、平成27年度予算の要求状況は・・・。

係長: 課長、平成27年度予算の要求状況集計結果が出ました。なんと、29億1,800万円の財源不足です!

課長: えっ・・・(絶句)。ちょっとよく聞こえなかったんだけど。

係長: 収支ギャップ(歳入と歳出の差額)が29億1,800万円なんです。この額は私が財政課に来てから最大です。

課員: 昨年は12億800万円でしたから、一気に17億1,000万円も増えてしまいましたね。

課長: ショックだなあ。

係長：これだけのギャップは私も初めてなので、今後どうなっていくのかある意味未知との遭遇ですね。

補佐：要求状況についてもう少し説明して。

課員：歳入のうち、基幹である市税は、個人所得割や固定資産税(家屋)の減を主として、軽自動車税以外の税目で減収を見込んでいるため、4億4,600万円(4.4%)の減額要求です。その他、生活保護・児童・医療・介護にかかる給付費などの伸びに伴う国・県支出金等の伸びを見込んだ結果、歳入予算は394億4,400万円、11億2,600万円(2.9%)の増要求となっています。

補佐：歳出はどのような？

課員：歳出は、特別会計への繰出金及び生活保護・児童・医療・介護における給付費などの社会保障関係費の伸びを中心に、公共施設の更新需要の増加もあり歳出予算は423億6,200万円、40億4,400万円(10.6%)の増要求です。特に総務費は庁舎新附属棟の建設や防犯灯のLED化工事などの実施により大幅増です。

係長：この結果、収支ギャップは29億1,800万円です。ここがスタートラインで、今後の予算編成過程でこのギャップを解消していかななくてはなりません。

課長：厳しいなあ。前途多難だなあ・・・。

補佐：仕方ないわね。歳入を増やし、歳出を抑制して頑張っていきましょう。

※要求時点の集計結果は後の予算編成作業に大きな影響を及ぼしますので、くれぐれも多額の要求漏れや加算漏れ等がないよう、精査してから提出をお願いします。

その後予算編成作業は、11月18日からの全課を対象としたヒアリングに移ります。そのヒアリング前日。

係長：課長、明日からのヒアリングの時に、収支ギャップが29億あることを各課に伝えてくださいね。よろしくをお願いします。

課長：分かった。任せとけ。でもこの状況だと中期事業計画に登載されている事業にも切り込んでいかなくちやならないかもしれないな。

補佐：そうですね。登載された事業は優先的に予算化したいですが、必ずしもそうならないこと、厳しい査定になることを各課にアピールしましょう。

そんなこんなで4日間に渡るヒアリングを実施しました(出ずっぱりはかなり疲労します)。その後は財政課の各担当者がみなさんのところに個別ヒアリングに行ったり、資料収集をして各自の査定案を取りまとめます。

そして12月半ばには各担当者の査定案を課長、補佐、係長を交えて確認・調整する財政課長査定にステージが移ります。財政課の各担当者にとってはここが大きなヤマ場となります。平成27年度予算については丸4日を費やし、その間会議室に缶詰めになって、全課分の歳入歳出予算の査定状況を確認しました。そんなある日。

係長：課長査定が終わった課分の査定を財務会計システムに入力して。今日中に集計出したいから。

課員：課長査定で宿題になっている部分はどうしましょうか？

係長: とりあえず保留で、数字だけで良いからシステムに反映して。部長査定が18日で、市長査定が22日だから時間がないんだ。

課員: 係長、煙吹いてないか(心の声)。

そして総務部長査定まで終了し、いよいよ市長査定に臨む段階に。

課員: 課長、部長査定を反映した集計結果が出ました。

課長: 収支ギャップはどんな状況だ?

課員: 約7億9,800万円です。大分詰まりましたね。

補佐: でもまだ8億近くもあるのね。

係長: それじゃ、これで市長査定用の資料作成に取り掛かりますね。

課長: よろしく頼んだぞ。

そして、12月22日の市長査定を迎え、その際の修正項目などを反映した結果で24日(クリスマスイブ)に内示という段取りとなりました。ちなみに内示時点の収支ギャップは約9億800万円……。このような状況でしたので、必ずしもみなさんのご期待に添えるような査定結果ではなかったであろうことは自覚しています。

その後は、年明け早々に調整要求を受け付け、部長間折衝を経て再度の市長査定、再内示など非常に慌ただしいスケジュールを坦々とこなしていきます。みなさんにとってもハードワークだったことと思います。いつもショートノーティスですみません。

それから、財政課は予算書の印刷製本を発注するため、原稿の引き渡し期限があります。その日(1月27日でした)までに歳入歳出の最終調整、予算書原稿の作成、各課への点検依頼など期限ギリギリの攻防が繰り広げられます。予算については目いっぱいまで歳入の増加と歳出の抑制を目論み、少しでも収支ギャップを解消するよう最後まで努力しています。

1月16日時点では収支ギャップが約6億800万円という状況でしたが、歳入では、再算定の結果、地方消費税交付金が3億円ほど多く見積もれたこと、一方の歳出では、国からの「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」を活用する事業を平成26年度3月補正予算に前倒したことなどにより、最終的な収支ギャップは約2億1,100万円に圧縮することができました。

この結果、6億円程度必要と見込んでいた財政調整基金繰入による財源調整は、平成26年度予算と同額の3億円とすることができました。まさに「逆転だよ。逆転。」といった感じです。8対7のスコア(ルーズヴェルト・ゲーム)で勝利(奇跡の逆転劇です)したような気分です。浮かれているはいけないのですが、何とか予算を組むことができ、本当にホッとしました。最終的に追っ付けた課員の努力に感謝です。ご苦労様でした!

そして、みなさんのご協力もあり、無事に3月議会に平成27年度予算案を提案することができました。ありがとうございます。<(_)>

平成27年度予算はこのような経緯を経て編成されました。一般会計の予算額は237億1,600万円で、特別会計を含めた額は409億2,130万円となっています。総額で初めて400億円を突破しました。

主要事業として、佐貫駅周辺地域整備基本構想策定や新都市拠点開発エリア事業化調査など、市の将来を見据えたビジョン策定や庁舎新附属棟建設、防犯灯のLED化工事などハード面

の整備、さらに子育て支援コンシェルジュ配置などのソフト面のさらなる充実などがあり、平成26年度3月補正予算に前倒し計上した事業と併せて、より効果的に執行できるよう配慮しました。詳しくは「平成27年度龍ヶ崎市予算の概要」(市公式HPにUPしてあります)をご覧ください。

また、今回の財政通信は、予算の内容について説明するというよりは、財政課における予算編成の舞台裏をドキュメンタリータッチで描いてみました。

次に財政課からのお知らせです。

2. 財務会計システムの更新について

平成26年度は、みなさんが日々伝票処理を行っている財務会計システムのリース期間が終了する年度でした。さらに平成27年7月にはOS「Windows Server 2003」のサポート期間が終了することもあり、財政課では情報政策課、会計課の協力を得て、プロポーザル方式による新システムの調達に取り組みました。7月に情報提供の依頼、11月には提案書の提出依頼を行って、3者から提出がありました。その3者でプレゼンテーションを実施し、提案書の内容と併せて審査を実施した結果、現在と同じ(株)内田洋行のシステムを引き続き利用(5年間)することに決定しました。

現行のシステムからバージョンアップしますが、操作性や見た目などに大きな変更はないと思っています。現時点では平成27年6月29日から、いわゆるクラウド型サービスを利用した新システムに移行する予定です。同一ベンダー間での移行処理となりますので、データの確認等を含め、みなさんに大きな負担が生じるということは想定していません。しかし、今後何かとご協力をお願いすることがあるかと思えます。その際はよろしくお願いいたします。

それでは、最後までお付き合いありがとうございました。

2か年にわたる市制施行60周年記念事業が平成26年度で終了し、平成27年度は新たな60年に向けたまちづくりを進めていく年です。

市の予算は公共サービスの設計書ですから、きっと、市が目指す方向や、重点施策が見えてくるはずです。また、「平成27年度龍ヶ崎市予算の概要」は予算の内容について網羅されていますし、希望者には予算書もお分けしています(個人オーダーは有料1,540円になります)。

みなさんもいつ財政課に異動になるかわかりませんが、市民の方々から説明を求められることもあるかもしれません。ぜひ勉強してみてください。よろしく申し上げます。では、また次回(^_^)〜